モニタリング項目：都市整備の動向

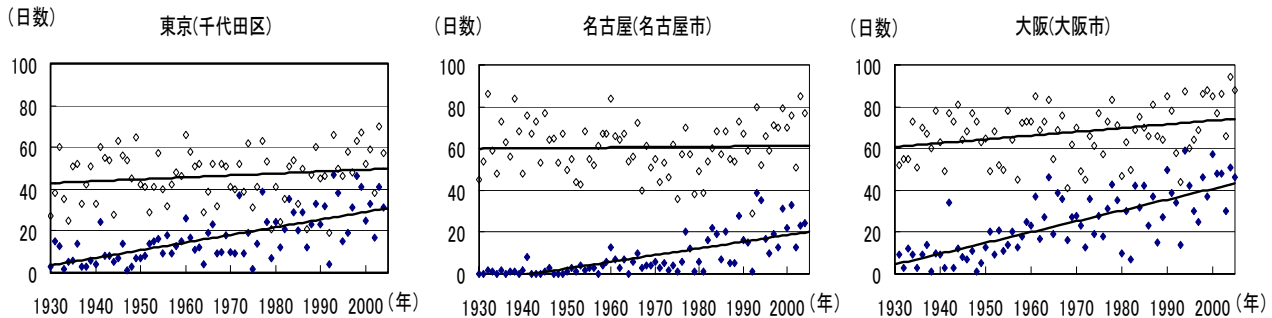
視点：環境と共生した社会システムの構築はどの程度進んでいるか。

## 指標：真夏日・熱帯夜数、みどり率、ガス使用量・電力・ガソリン販売量　（ヒートアイランド化）

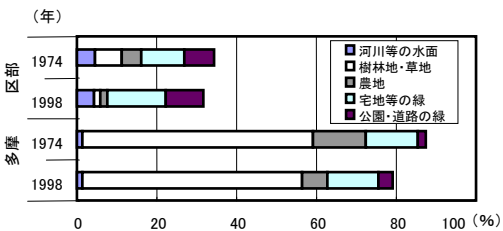
真夏日は微増ないし横這いであるのに対し、熱帯夜の増加が著しい。特に大阪ではそれが顕著である。
都市のヒートアイランド現象の要因として、「地表面被覆の人工化」と「人工排熱の増加」が挙げられる。

大都市における真夏日数・熱帯夜数の経年変化（1931-2005）

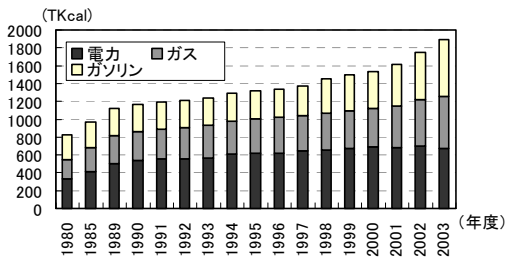
◇真夏日　◆熱帯夜　※実線はそれぞれの回帰線




東京都におけるみどり率の推移




東京都における電力使用量、ガス・ガソリン販売量の推移




（注）

1. 真夏日：日最高気温が30℃以上
熱帯夜：日最低気温が25℃以上

2. ガソリン発熱量：1㌔＝8400kcal
にて算出（資源エネルギー庁
「総合エネルギー統計(H12)」による）。

3. みどり率　東京都が推奨している指標。
（樹木地+草地+農地+屋上緑化+公園全域
+街路樹+河川湖沼水路）／行政面積
にて算出。

（出典）気象庁HP「電子閲覧室（http://www.data.kishou.go.jp/index.htm）」、東京都環境局・総務局HP資料より国土交通省国土計画局作成。